

東南の風

顧問

吉崎正弘



安倍政権の大きな特徴の一つが外交重視であり、キーワードが「トップセールス」である。

経済成長期における日本は良くも悪くも世界で存在感を示し、「ジャパン・バッシング」を受ける時代であった。経済停滞後はバッシングはなくなったが、「ジャパン・バッシング」ないし「ジャパン・ナッシング」の軽量国家であったといえる。その後、東日本大震災などもあり、外交へのリソース配分はいよいよ不十分となった。

自民党への政権交代後、大きく転換が図られ、各大臣の外国出張は激増した。その頃、政府におけるICT（情報通信技術）分野での国際担当の仕事をしていると、「ここ数年間日本が全く見えなかった。随分心配したが、ジャパン・ナッシングから脱却されたことを嬉しく思う」という趣旨の発言を多くの国からいただいた。特に、総理が一番多く出張されたASEAN（東南アジア諸国連合）諸国からは、異口同音に安堵を交えた発言が聞かれた。

日本の人口は、少子化に伴い急速に減少することが予測され、今後の国内市場に関しては悲観的にならざるを得ない。このような中で日本経済が持続的に発展するためには、高付加価値の商品やサービスを輸出していくことが必要である。特に、急成長する国々に対して日本の製品・サービスをアピールして、存在の認知、購買意欲の喚起を図ることが効果的であり、その有効な手段がトップセールスである。

そうした急成長する国の典型がASEAN諸国である。まず、何よりもASEAN諸国は距離が近い。たとえばフィリピンは空路6時間、時差1時間であり、往来は極めて容易である。また、ASEAN諸国はもともと親日的でもある。

日本が、官民挙げてASEAN諸国に対し原子

力発電、新幹線、日本食、クールジャパンなど、さまざまな分野のセールス活動を展開していくのは必然といえることができる。もちろん、対日理解が深まることは国際平和にも大きく貢献する。

経済成長は埋蔵資源、人口、国民性など多くの要素で決まるが、投資意欲に関してはカントリーリスクが加わる。

第一は、「治安」である。特に、世界に類を見ない治安の良い日本から見ると、街を安全に歩けるかどうかは大きな指標である。この観点からすると、「アラブの春」以降民主化が進んだ多くの国では、治安は概して悪い。日本からの投資も観光も控えがちにならざるを得ず、いわゆる「イスラム国」問題がそれに拍車をかける。これに対し、ASEAN各国の治安は総じて悪くない。

第二は、「制度の透明性」である。その国の制度自体が不透明であったり、運用が恣意的であったりすると、安心して投資できない。日本人からすれば「透明で公平な制度と賄賂のない運用」は当然であるが、中国ですら賄賂の撲滅が全国人民代表大会の大きなテーマであるように、世界的にはそうではない。また、利益を海外に持ち出しにくい国に対する投資も躊躇される。制度が読めないことは、カントリーリスクの高さを意味するのである。この点でも、ASEAN諸国は少なくとも改善の努力をしていることは間違いない。

日本企業は概して国内市場中心にビジネス展開をしてきた。その最大の理由は、国内市場がほどほどの規模であったことにあり、国内市場

が小さい韓国企業が必然的に海外市場を相手にせざるを得なかったことと対照的である。外国政府からよく聞くのは、「日本製は素晴らしい。しかし、高く買えない」という言葉である。これは、価格が高くても高品質なものが好きな日本の消費者を相手としたビジネスを日本企業がやり続け、海外市場の消費者ニーズを発掘しての開発・売り込みには不熱心だったことに起因しているように思われる。そして、「当たるかどうか分からないリスクがある上、売れたところで単価が安いので収益につながらない。だから、国内市場だけで十分である」という言い訳につながってきたように感じられる。

それでも多くの製品は価格と品質がトレードオフ関係にあるが、テレビ番組などのコンテンツ製品はその国の文化や価値観などに大きく左右され、日本からの輸出は難しい。たとえば、イスラム圏で飲酒系の番組はご法度であるし、鉄腕アトムが以前米国で「チャイルドポルノだ」とされたこともある。また、肌の色が違うこともあり、実写のドラマやバラエティなどは欧米ではあまり評価されない。その点、ASEAN諸国では問題ない。ただ、日本の番組のテンポが速すぎ、1回当たりの放映時間や全体の回数を工夫する必要がある。マーケティングを十分に行い、視聴者の嗜好に合った番組を作る必要があるが、韓流ドラマの入念な現地マーケティングに比べると、現在のところ国内番組の二次利用の感を払拭できない。

このままでは日本の国内市場は縮小する。成長するASEAN市場のマーケティングを十分に行い、日本の製品やサービスを受け入れてもらえるように努力すべき時が今である。風は東南から吹いている。 (よしぎまさひろ)